

家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課
 TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204
 香 川 県 東 部 家 畜 保 健 衛 生 所
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558
 香 川 県 西 部 家 畜 保 健 衛 生 所
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

平成28年度 畜産施策の概要

最近の家畜衛生をめぐる情勢は、平成26年に高病原性鳥インフルエンザが5県6農場で発生し、約46万7千羽が殺処分されましたが、今年に入ってから、周辺国では口蹄疫、HPAIともに発生が続いており、依然として注意が必要な状況にあります。また、本年4月には熊本地震が発生し、酪農家における集乳不能をはじめ、畜産にも大きな被害が出たところです。このように危機管理が重要視されている中、県では、平成28年3月に「香川県鳥インフルエンザ防疫マニュアル」、「香川県口蹄疫防疫マニュアル」を改正するとともに、4月の人事異動を鑑み、殺処分等の防疫措置に従事する県庁内の防疫従事予定者を更新するなど、重大な家畜伝染病が発生した際に迅速な初動防疫措置が行えるよう準備しているところです。

また、県は平成28年3月に、農業の持続的な発展と笑顔で暮らせる農村の実現をコンセプトに「香川県農業・農村基本計画(平成28~32年度)」を策定しました。この中で、国内外の畜産を取り巻く厳しい状況やTPPをはじめとする経済連携協定の影響を乗り越えるため、国の畜産クラスター事業などを活用し、規模拡大や新技術の導入により生産コストの低減と品質の向上を進めて、畜産農家の経営基盤を強化し、生産拡大を図ることとしています。オリーブ牛やオリーブ豚・オリーブ豚などの高品質で特長のある畜産物については、ブランド化による差別化を進めるとともに、戦略的な取組みを展開し、様々な流通業者や消費者のニーズに対応した流通・販売を促進して需要を高め、手堅い需要と高値安定販売を図ることとしています。特に、オリーブ牛については、肥育素牛が全国的に不足するなか、県内繁殖雌牛の基盤強化のため、昨年と同様に優良繁殖牛の導入を支援します。また、乳牛への受精卵移植を積極的に推進するとともに繁殖農家に発情発見装置などのICTシステムの導入経費を助成し、県内産の和牛肥育素牛の増頭を図ります。

さらに、酪農家に対しては、安全でおいしい牛乳を生産し、経営を安定化させるために今年度は、県、農協、乳業メーカーが一体となって総合的な検査、指導を行います。

最後に、国の施策の積極的な活用を努め、肉用牛、肥育豚、鶏卵の価格安定制度等を支援するとともに、県予算の重点的な配分による生産から流通・消費にわたる総合的な施策を実施し、本県畜産の振興を図ってまいります。

疾病情報

家畜伝染病・伝染性疾病発生状況(近県)

疾病名	畜種	発生場所	発生時期	発生戸数	発生頭羽群数
腐 蛆 病 (法 定)	蜜蜂	愛媛県	H27.12月	1	1
牛 白 血 病 (届 出)	牛	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県 島根県、山口県、愛媛県、徳島県 高知県、香川県	H27.12月~H28.3月	113	118
牛ウイルス性下痢粘膜炎(届出)	牛	兵庫県、鳥取県、島根県	H27.12月~H28.3月	7	9
破 傷 風 (届 出)	牛	鳥取県	H28.1月	1	1
牛伝染性鼻気管炎(届出)	牛	広島県	H28.2月	1	5
ネ オ ス ポ ラ 症 (届 出)	牛	広島県	H28.3月	1	1
豚 丹 毒 (届 出)	豚	広島県、鳥取県、愛媛県 徳島県、香川県	H27.12月~H28.3月	30	52
サルモネラ症(届出)	豚	広島県	H28.3月	1	1
伝染性喉頭気管炎ILT(届出)	鶏	岡山県	H28.1月	3	5
伝染性気管支炎IB(届出)	鶏	愛媛県	H28.1月	2	7
鶏マイコプラズマ病(届出)	鶏	徳島県	H28.1月~3月	5	25
パ ロ ア 病 (届 出)	蜜蜂	香川県	H28.3月	1	1
アカリダニ症(届出)	蜜蜂	広島県、愛媛県	H27.12月、H28.2月~3月	3	3
ノ ゼ マ 病 (届 出)	蜜蜂	香川県	H28.3月	3	6

安全でおいしい県産牛乳生産への取組みを始めます

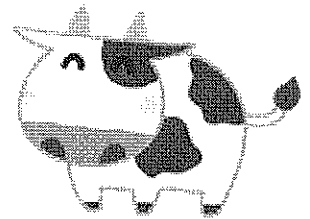
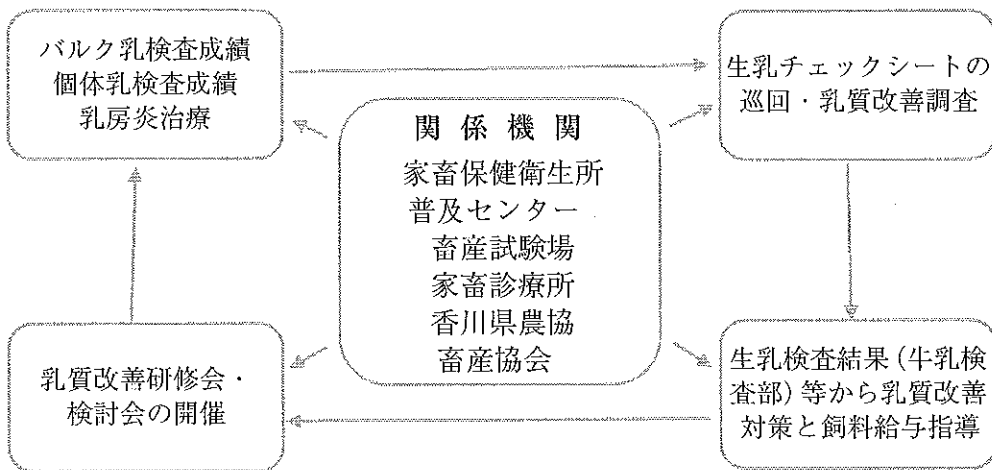
今年度から、県内酪農家のバルク乳の細菌検査等を実施し、家畜保健衛生所、普及センター、畜産試験場、家畜診療所、香川県農協、畜産協会等関係機関が連携して、安全でおいしい高品質牛乳の生産と酪農家のレベルアップを図る事業を始めます。

取組みは、県内全酪農家のバルク乳検査を実施するとともに、選定したモデル農家においては、衛生状況の確認や細菌検査、乳成分・体細胞等検査、おいしさ（風味）に関連した臭気検査などの結果を基に、レベルアップへの対策を行うものです。

酪農家から依頼された個体乳については、従来どおり細菌検査等を実施し、生産性向上を図っていくこととしています。

安全でおいしい牛乳生産への取組みのためにも、サンプリング等にご協力をお願いします。

取組みの概要



豚デルタコロナウイルスについて

みなさんは、「豚デルタコロナウイルス」をご存知ですか？

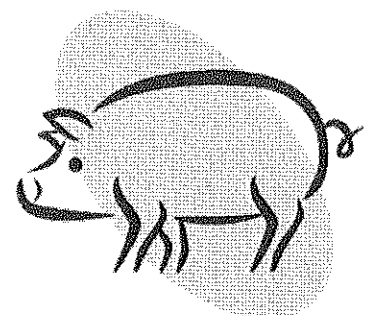
最近、県内の養豚場でも検出されました。

豚のコロナウイルスの病気と聞くと、豚流行性下痢（PED）や豚伝染性胃腸炎（TGE）を思い浮かべるとと思います。今回ご紹介する豚デルタコロナウイルス（PDCoV）は、PEDやTGEのような嘔吐や下痢を起こしますが、死亡が見られず、症状が半日～数日程度で治まると言われています。その症状は、発生農場によって若干異なっており、アメリカオハイオ州のある農場では、繁殖豚と哺乳豚の下痢、山形県では繁殖豚の下痢嘔吐が強く、栃木県では繁殖豚と哺乳豚で嘔吐下痢など様々です。

香港が初発ですが、日本へのPDCoV侵入経路は不明です。

症状は半日～数日で治まりますが、ウイルス遺伝子は4ヵ月経っても検出されることもあります。有効なワクチンはなく、対策はウイルスを農場内に侵入させないように衛生管理に努め、消毒を徹底することが重要です。

日常の観察を徹底し、飼養している豚が嘔吐や下痢を呈している場合は、家畜保健衛生所にご連絡ください。

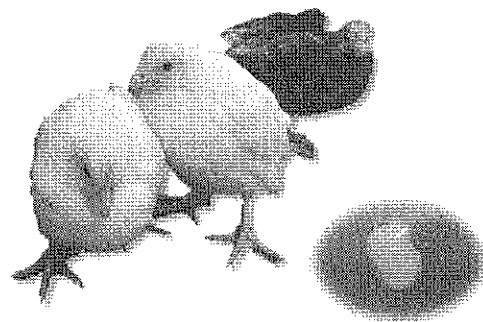


県内で19年ぶりに発生した伝染性ファブリキウス嚢病 ～中四国鶏病技術研修会、地区業績発表から～

伝染性ファブリキウス嚢病（IBD）はウイルスによる鶏の急性感染症で、臨床症状として、羽毛の逆立ち、元気消失、食欲不振、下痢と総排泄腔の汚染などが観察される届出伝染病です。香川県では平成8年の強毒型の大発生以来、県内での報告はありませんでした。今回、県内で19年ぶりに採卵鶏のワクチン接種農場で従来型のIBDが発生したので報告します。

37日齢の採卵育成鶏で死亡率が上昇し、家畜保健衛生所に通報がありました。沈鬱、水様の白痢を示す個体も散見されましたが、成鶏は異常がありませんでした。異常鶏を解剖して調べたところ、ファブリキウス嚢の軽度腫大がみられ、病理組織検査と遺伝子検査で従来型のウイルスが原因のIBDと分かりました。抗体検査をしたところ、ワクチンを接種していましたが、有効に働いていなかったことが分かりました。

対策として、畜舎はアルデヒド、塩素系消毒薬で消毒し、次ロットよりワクチンを変更しました。2次感染を受けていなかったこともあり、耐過鶏は正常に産卵を開始し、また、次ロットに発生は確認されませんでした。終息までの死亡率が0.43%と通常よりも軽かったのは、日頃の衛生管理のたまものと考えられました。



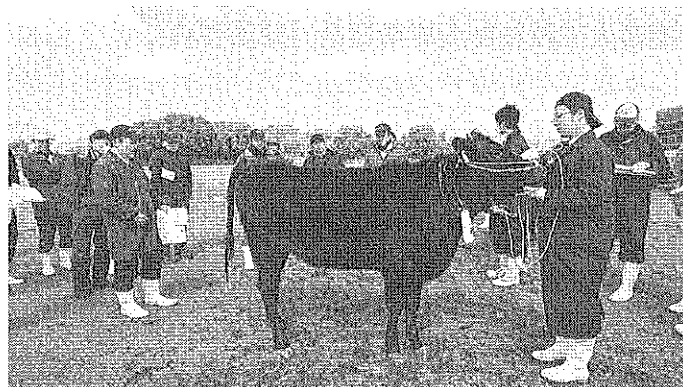
平成27年度香川県和牛振興研修会

平成27年度香川県和牛振興研修会が3月1日、香川県家畜市場で開催されました。講師に全国和牛登録協会の穴田勝人事務局長を招き、県内和牛改良組合員やJA職員など関係者約80名が参加し、午前は高等登録審査及び基本・本原登録審査研修、午後は「和牛改良の活性化について」の講演がありました。

高等登録審査及び基本・本原登録審査研修では、5頭の牛で審査を行いながら審査の説明があり、特に美点（良いところ）や欠点を自分の牛に置き換え高得点が取れるよう、参加者の聞き入る光景が見られました。

「和牛改良の活性化について」の講演では、肉質（能力）の向上や生産力（繁殖能力）の向上など、これからの課題への取り組みについて参加者は熱心に聞いていました。また、和牛改良組合の取り組みについても講演され、地域の和牛生産のレベルアップに繋がる内容でした。

今後の各和牛改良組合の活動に期待したいと思います。



平成28年度 組織体制

畜産課

農政水産部次長(兼)課長 秋山正英
副課長 倉岡伊都子
家畜防疫主幹 光野貴文
【総務・経営グループ】
主任 谷本国博
主任 平池直子
主任 今雪幹也
主任 中村正也
【生産流通グループ】
課長補佐(総括) 澤野一浩
副主幹 田淵賢治
副主幹 田中宏一
主任 三谷英嗣
主任 上村知子
主任 北本英司
主任 加藤 稔
【衛生環境グループ】
課長補佐 大谷徳寿
主任 山本英次
主任 森田えり
主任 久保貴士

東部家畜保健衛生所

所 長 井上英幸
次長(兼)家畜防疫主幹 香川正樹
【庶務課】
課 長 三野桂一郎
主 任 岡橋順子
【衛生指導課】
課 長(兼) 香川正樹
副主幹 上村圭一
【防疫課】
課 長 泉川康弘
主 任 片山進亮
技 師 麻野加奈子
獣医師 宮井俊二
【病性鑑定室】
室 長 野崎 宏
主任研究員 宮本純子
主任研究員 森西恵子
主任研究員 土佐 進
主任技師 坂下奈津美
【小豆支所】
室 長 松元良祐
嘱 託 明田由香里
嘱 託 中岡和美

西部家畜保健衛生所

所 長 橋本和博
家畜防疫主幹(兼) 合田憲功
【庶務課】
課 長 氏家 敬
主 任 細川 毅
主任主事 渡辺 誠
【衛生指導課】
課 長 上原 力
主 任 澁市さつき
【防疫課】
課 長 笹田布佐子
副主幹 高橋茂隆
技 師 川江早矢香
【西讃支所】
支所長 合田憲功
副主幹 中嶋哲治
副主幹 大西美弥
主 任 山下洋治
主 任 島田徳子
主任技師 飯間彩花
獣医師 秋山正尊

＜お知らせ＞

○6月15日は鶏などの定期報告書の提出期限です

鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥及び七面鳥の所有者の方は、平成28年2月1日現在の飼養羽数等について、報告書の提出をお願いします。

○家畜人工授精師養成講習会(家畜体内受精卵移植)の開催について

本年度の家畜体内受精卵移植(牛)に関する講習会を次のとおり開催します。詳細は、県ホームページを御覧ください。

開 催 日：平成28年8月8日(月)～9月6日(火) (20日間)

※土・日・祝日及び8月15日(月)は休講

開催場所：県畜産試験場(講習及び実習)

受講条件：牛についての家畜人工授精に関する講習会の修業試験に合格している者で、免許取得後、体内受精卵移植業務に従事しようとする者

受講を希望する方は、最寄りの家畜保健衛生所へ御連絡ください。